

社会全体で変えていくために

学生に「男女平等ですか？」と尋ねると、男女問わず多くが「平等だと思ふ」「特に差を感じたことがない」と答えてくれます。ただ、社会や家庭に目を向けてみると、まだまだ固定的性別役割分担意識が多々あることに気づきます。さらに就職活動などで、社会と教育の場という2つの環境を同時にみると、学校現場では男女平等が重視されてきたのに、社会では平等が通じないことに気づかされたという声がありました。将来について夢と希望が膨らんでいる若者が性別にかかわらず活躍し、自身で選択できる社会を作っていくかなければなりません。

若者が社会の課題に気づき、発信していくことで、より良い社会にしていくことは、今後一層求められていきます。

時代の最先端である若者が社会をより良く変える!



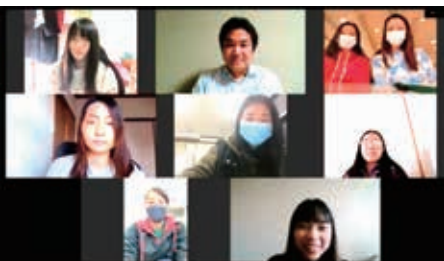
就労の場には様々な世代がいて、ジェンダーバイアスが強いとすると...

就労の場 平等意識弱い

- 少数派であるため、男女の平等を主張できない。
- ジェンダーの再生産に加担することになる。

学生 平等意識強い

負のスパイラルが続く



遠隔による意見交換 上部中央が富川先生

聖泉大学人間学部の富川ゼミでは、学生が主体となって「ジェンダー平等プロジェクト」に取り組んでいます。米原市役所との連携による「遠隔によるジェンダー平等プロジェクト」では、市の若手職員との協働で「LGBTQ」に関する政策、特に「アライ」を増やすための政策を検討してきました。

彦根市役所との連携による「十人十色プロジェクト（性の多様性を知ってもらおう!）」では、「彦根市パートナーシップ宣誓制度」の周知やLGBTQへの理解を深めるための情報発信に取り組んでいます。



ラジオ番組の制作(情報発信)

これらのプロジェクトは「PBL型授業 課題解決型学習」の一環として実施しています。教員のサポートはあっても、あくまでも学生主体の活動を通して、それぞれが当事者としての意識を持ち、自身の問題としてジェンダー平等について考え行動できるようにすることを目指しています。現在は、G-NETが主催の「ジェンダー平等 課題別意見交換会」にも参加し、活動の輪を広げています。

ジェンダー平等社会の実現に向けては、大学生をはじめとした若者が、当事者の一人として各種取り組みに参画することが重要になります。県内の大学生の皆さん、若者が主役のジェンダー平等プロジェクトと一緒に活動してみませんか。

VOICE

大学生によるジェンダー平等プロジェクト

聖泉大学 人間学部 富川 拓准 教授



新たな気づきを広める

Point
男の子は青色、女の子はピンクって言われることがあるけど、私は青色が好きだよ!

私たちも考えたよ!

「ジェンダー平等子ども会議」では、子どもたちそれぞれから提案が出されました。この提案が県内の学校で実践に移され、ジェンダー平等で過ごしやすい、安心して自分を表現できる学校になることを願っています。そのためにこの提言を地域、学校現場に広げていく必要があります。



ジェンダー平等に向けた私たちの思い

対等な関係

ジェンダーについてあまり知らなかったけど、男子も女子も対等にかかわれたらいい

自分を大事に

男らしさ女らしさではなくみんな平等になって、自分を大事にする

差別をなくす

ジェンダーという言葉を知っている人にも知らせてもらって、男女で差別することをやめてもらいたい

個人を見る

男子だから女子だからで判断するのはなくて、その人として判断してほしい

一人ひとりを大事に

女子だから男子だから当たり前前になつていけど、ジェンダーについてもっと知ってもらって、一人ひとりを大事にしていけるようにしたい



自分の考えを大事に

男子だから女子だからではなく、私はこう考えていると言える人になりたい

友だちに知らせる

ジェンダーを学んで、男女で区別しないということを知りたい

VOICE

子どもたちと共に考えて

聖泉大学 3年生 谷口 海月 さん

「ジェンダー平等子ども会議」に、ユースリーダーとして参加させてもらいとてもよい経験ができました。

今回は「自分らしさを発揮できる学校にするためにできる、子どもたちにはテーマに沿った「自分らしさ」について考えてもらいました。「自分らしさ」とは何かと問われると、とても奥が深く正解のない問いだと思います。そのため、子どもたちには少し難しいかもしれないと思いましたが、一生懸命考えてくれて、自分なりの答えを導き出してくれたので良かったです。

また、「自分らしさが発揮できない時はどんな時か?」「自分らしさを発揮するために何(考えや行動)が必要か?」子どもたちに考えさせてもらった際、様々な課題が出てきました。中でも、ジェンダーに関わる問題や勝手に決めつけられている学校のルールなどが課題として挙げられました。課題について考えていくうちに、これまで勝手に決めつけられて「当たり前」と思っていたことに、子どもたちが疑問を持ち始めた最終的にはジェンダーについてもっと知るべきだと、考えてくれるようになりました。男・女らしさなどで区別しないことなど、ジェンダー平等について色々と考えてくれるようになったので、今回の「ジェンダー平等子ども会議」は、意義深いものになったと思います。

「自分らしさ」や「ジェンダー」について子どもたちと一緒に考え、学び、自己理解や新たな学びになりました。

